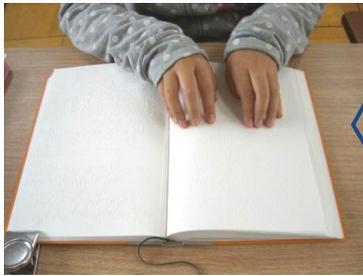


全盲の幼児児童生徒は、どのように学習を行うのか？

全盲の幼児児童生徒が、どのような教材教具を活用して学習を行うのかを紹介します。たとえば、点字教科書、触図、模型、標本、録音、実物などの教材、及び点字盤、点字タイプライター、表面作図器、立体コピー、触図形成装置、盲人用計算器、計測器などの教具があります。今回は、この中の一部を取り上げます。

点字入門期の児童生徒は、これらの触り方や使い方を学習することから始める必要があります。

点字教科書



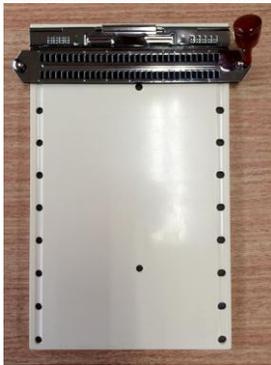
教科書の文章や絵、図を点訳、点図にしてあります。また、一般図書の点訳本も多数あります。

点字タイプライター



熊本県立盲学校で多く使われているのは、アメリカ製のパーキンスプレーラーです。点字の6点に対応した6つのキーがあり、それぞれの点に相当するキーを同時に押すことによって点字を書いていきます。

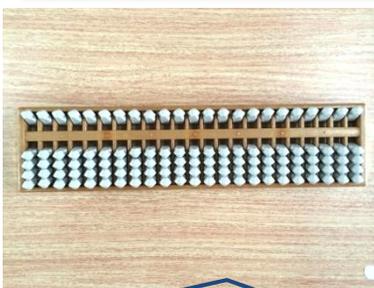
点字盤



「全国盲学生点字競技大会」が行われました。問題を聞き取り、点字盤に書き写しています。

点字を書くために広く用いられているのが点字盤です。板・定規・点筆から成っています。板に点字用紙をセットし、定規を当て一点ずつ右から打っていきます。読むときと左右逆転した点字を書いていくことになります。

盲人用そろばん



盲人用そろばんは触覚的に操作しやすいように玉の形状が工夫されています。盲人用そろばんでは両手の親指、人差し指、中指の6本を用いて計算を進めます。

実物の教材



「たて琴」の実物を触って、大きさや形、音などを学習しました。

参考文献：「視覚障害教育入門Q&A」全国盲学校長会 編著
「点字・点訳基本入門」当山啓 著
「視覚障害学入門」佐藤泰正 編